

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 7 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 8 年 6 月 2 日 (木) 午後 4 時から 6 時 2 5 分まで				
開催場所		南区合同庁舎 3 階 講堂				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 3 人 (こども育成部長、他 1 2 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 委嘱状交付 3 こども育成部長あいさつ 4 議 題 (1) 児童相談所一時保護所における所持品検査の検証報告について (2) 平成 27 年度各区のこども家庭相談課における相談状況について (3) 平成 27 年度児童相談所における相談状況について 5 そ の 他 6 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 委嘱状交付

3 こども育成部長あいさつ

4 議題

(1) 児童相談所一時保護所における所持品検査の検証報告について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

報告書7ページの(4)に、具体性に欠ける指示とあるがどのようなことなのか。

所持品検査の方法が不十分ということだけで、どのような検査を行えばいいのかという具体的な指示がなかった。

指示命令を行う立場の職員はしっかりとした判断をし、職員に対して明確に伝える必要がある。

記入用紙がなくなったことにこだわることよりも、本来の一時保護所機能の中でこだわるべきことがあるのだろうと思うと大変残念である。一時保護所のあり方、一時保護所における専門性を担保し、それぞれの専門職としての専門性を発揮し、子どもの最善を模索し追求していくということは、子どもとの関係形成の上に基づいて成り立つものであるため、そのあたりの所からもう一度考えていただきたい。

(2) 平成 27 年度各区のこども家庭相談課における相談状況について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

(3) 平成 27 年度児童相談所における相談状況について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

虐待は親から子と繋がっていくと言われているので、幼稚園であれば幼稚園教育を通して、子どもや親を教育していくことが大切だと思う。

把握先別では警察の数値がこども家庭相談課と児童相談所でかなり違うがどのような理由なのか。

児童相談所が圧倒的に多いのは、少年警察活動規則に基づき、警察が保護をした子どもについては、児童相談所に通告をすることになっているためである。

不登校の場合には青少年相談センターが管轄しているが、各区のこども家庭相談課と児

童相談所との連携はどのようになっているのか。

日頃から連絡調整はしているが、青少年相談センターと各こども家庭相談課では5月と11月の年2回、担当の先生とこども家庭相談課のケースワーカー等で子どもの様子などについて情報交換をしている。また、各区のこども家庭相談課が抱えているケースについては、要保護児童対策地域協議会の実務者会議の中で、年2回ほど全件チェックを行っていて、目こぼしのないようにしている。

前年度末に、通告をするための情報を整理したチラシを保育所用、幼稚園用、学校用など内容を変えて作成、配布し、必要に応じて職員が説明を行っている。

通告された中には、近所の嫌がらせなども含まれていると思うが、実際に虐待として扱ったのはどのくらいの割合なのか。

嫌がらせなどの通告はそれほどないと感じている。

日本は虐待基調と言われており、これでも虐待は少ないと思っている。しつけについても考え直さなければいけないし、虐待を減らしていくには、意識改革をしていかなくてはいけないと思う。

5 その他

- ・平成28年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について、資料に基づき、担当課から説明を行った。

定員割れをしている保育所も出てきている中で、相模原市全体の将来を見込んでいかないと、地域によっては共倒れする保育所等も考えられるので、よく精査をしてもらいたい。

子どもが減っていくのは明らかなのに、なぜ保育所等を造るのか、理解できない。本当におかしいことである。

子ども・子育て支援事業計画の中でも31年度までは、保育所等の申し込みは増えていくという予測をしている。就学前児童数については減っているが、保育所を申し込む人は3人に1人で、これはまだまだ伸びていくという状況の中で、ライフスタイルや社会環境の変化によってどのような影響があるか分からないが、もうしばらくの間、保育需要は増えていくと考えている。しかし、それが長期的にどのようになるかは、今後、公立保育園のあり方を含めて分析し、今回の待機児童数が0人というのは、幼稚園や保育所等にご協力いただいた結果なので、全体の中でしっかり考えて、今後の計画の中で行っていくところだと思う。

国は資格試験に免除科目を設けるなどして、介護福祉士と保育士に互換性を打出しており、専門性の垣根を低くして裾野を広げているが、本市の子どもに関する様々な人材のあり方も考えていかないといけない。

いろいろなことを国がメニュー化している中で、何を変えていいのか、何を変えてはい

けないのか、そのところをしっかりと見極めをしていかなければいけないが、そこは行政だけでは見極めができないので、皆さんのご意見等を伺いながら、しっかりと判断をしていきたいと思う。

6 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成28年6月2日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	かわさき ひさし 川崎 永	相模原市幼稚園協会		出席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		欠席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		欠席
11	いしざか みちこ 石坂 美智子	相模原市立小学校長会		出席
12	あしざわ すすむ 芦沢 進	相模原市立中学校長会		出席